



食と景観と体験と交流 小さな村で暮らす旅のすすめ

服部 政人 (はっとり まさと)

特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会 事務局長

鶴居村は釧路の内陸約40kmに位置し、タンチョウ、湿原と酪農が観光資源の2,600人の小さな村です。

30年前に、大阪からこの地に移り住みました。酪農関係17年、地域振興5年、観光に携わって10年目を迎えます。25年前に妻が始めたファームレストランやコテージ(宿泊)。数えきれないお客さまとの交流も自然と自分たちのライフスタイルになりました。まさに公私ともに都市農村交流にどっぷりな北海道生活です。

《地域資源の魅力》

鶴居村観光協会は、平成24年にNPO法人へ移行しました。タンチョウ、湿原、酪農と鶴居村の地域資源の魅力を確認し、この恩恵を生かし、ゆったりと楽しく豊かな時間を過ごす、ここならではの暮らすような旅をテーマに、地域づくり型観光を確立したいと考えたのです。

酪農の応援団としての観光地づくり、村内のグリーンツーリズム団体との連携によるファームイン宿泊と農業体験の商品企画、チーズなど特産品販売による観光PRを行っています。また、いつも食卓に乳製品がある酪農村の食文化の研究として「乳製品を使ったお料理を食卓に」を合言葉に、酪農文化が培った地域が愛する食文化の探求にも取り組んでいます。



東京カメラガールズ来村。都市農村交流



《むらびとの交流を》

タンチョウと共生する村づくりや郷土色豊かな食の体験など、様々な取組の中で、この村の暮らしを感じていただくことこそが重要であり、牧歌的な風景と村人との交流、農村の食卓が大きな観光資源だと感じています。私たちが創りたいのは、この村の暮らしで都会の方々に癒す、心の農村観光です。地場産食や丘陵地帯の散歩、村民と一緒に参加する地域の祭、生活を感じ取る酪農のお手伝いやタンチョウ保護など、ここだけの「スローライフ」(暮らし)を感じながら、思い出作りができる心の旅を創作すること。従来の旅行に無い“むらびと”との交流によって鶴居村が“第二の故郷”となり、将来の移住促進につながっていくと感じています。

《“美しい村”のこれから》

2,600人の小さな村で暮らす旅を目指す。当協会名には“美しい村”が付いています。日本で最も美しい村連合の理念を取り入れているのです。「失ったら二度と取り戻せない、農山村の景観や文化を守る活動」。世界中の人が、地場産品を食し、フットパスで交流をする。そんな農村の暮らしを肌で感じる、訪ねる人も招く人も有意義な観光を今後も創っていければと思います。

20年目の節目を迎える「わが村は美しく-北海道」運動。北海道の農林水産業を豊かにできるのは、農山漁村に住む私たち。地域で創る小さくてもここならではの取組で、大切な地域資源を育てましょう。

食と景観と体験と交流。小さな村で暮らす旅をすすめながら、村人と共に豊かな北海道を未来へと受け継いでいきます。

※ 当北海道開発協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から、「わが村は美しく-北海道」第1~9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。